

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 新田中学校（第一校舎） 校長 土肥和久

1 学校教育目標

- ・自ら学ぶ人
- ・共に生きる人
- ・健やかでたくましい人

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ① 学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、心豊かな生徒を育てる。
- ② 学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- ③ 学校図書館を活用し、自分を表現できる生徒を育てる。
- ④ 読書に親しみ、読書習慣と読書力をつける。

3 学校図書館の現状（令和4年度3月末）

蔵書状況	① 蔵書数 16,693 冊（蔵書基準冊数 12,640 冊）／ 蔵書率 132%（前年度末 126%）									
	② 新規購入図書 1,043 冊／ 廃棄図書 500 冊／ 増減冊数 +802 冊（寄贈 196 冊あり）									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1.94%	2.74%	9.00%	7.70%	9.10%	4.62%	3.19%	9.93%	5.27%	46.50%
メディア基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	② 開館時間：授業時、昼休み、放課後 17 時 00 分まで									
	③ 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 7.4 冊（前々年度末：2.3 冊）									
	④ 学校図書館利用率 2525.00%（前々年度末：1495%）									

（令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 17356 冊（蔵書基準冊数 12640 冊）／ 蔵書率 137%（前年度 132%）									
	② 新規購入図書 1078 冊／ 廃棄図書 415 冊／ 増減冊数 +668 冊（寄贈 207 冊あり）									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.0%	2.99%	10.57%	11.67%	9.11%	5.59%	2.19%	7.98%	2.33%	45.81%
メディア基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：授業時、昼休み、放課後（16 時 30 分まで）（前年度からの変更 あり）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 3.7 冊（前年度末：7.4 冊）									
	③ 学校図書館利用率 2571.00%（前年度末：2525%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第7学年	① 小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。 ② 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、I C T機器を使い分け、探究活動を進めることができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みを知る。	① 第7学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比 5%増 ② 各クラスで年間 5 回以上学校図書館蔵書を活用する。 ③ 図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率 100%
目標達成状況	
① 生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数は 5.71 冊である。 ② 校外学習に向けた学習等で活用することができたが、年間を通して利用が少なかった。 ③ 国語科の授業内でオリエンテーションを行った上、感染対策を講じた「学校図書館の利用のしかた」を年度初めに図書担当で作成し、全クラス（100%）で周知することができた。	

第8学年	① いろいろな読み物を読むようとする意欲を育てる。 ② 課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための思考を通じて、規範意識の育成を図る。
今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書を行うことができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進めることができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	① 第8学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ② 各クラスで年間5回以上学校図書館蔵書を活用する。 ③ 図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率100%
目標達成状況	
① 年間貸し出し平均冊数は5.54冊である。前年より2.66冊減少した。 ② 校外学習に向けた学習等で活用することができたが、年間を通して利用が少なかった。 ③ 国語科の授業内でオリエンテーションを行った上、感染対策を講じた「学校図書館の利用のしかた」を年度初めに図書担当で作成し、全クラス(100%)で周知することができた。	
第9学年	① 読書を通して考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ② 学校図書やICT機器を活用した探究活動を通して、言語能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための活動を通して、主権者としての素養を育成する。
今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書を行うことができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、全ての教科等における生徒の資質・能力を育成や基盤となる言語能力の育成・向上を図る。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、よりよい仕組みについて考えたり、話し合ったりすることができる。	① 第9学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ② 各クラスで年間5回以上学校図書館蔵書を活用する。 ③ 図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率100%
目標達成状況	
① 年間貸し出し平均冊数は7.02冊である。前年より3.86冊減少した。 ② 修学旅行に向けた学習等で活用することができたが、年間を通して利用が少なかった。 ③ 国語科の授業内でオリエンテーションを行った上、感染対策を講じた「学校図書館の利用のしかた」を年度初めに図書担当で作成し、全クラス(100%)で周知することができた。	
5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果	
取組計画・方針	
【蔵書・配架等に関すること】 ① 蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画を作成する。 ② 新規購入図書の発注を6月(40%)、10月(50%)、12月(10%)に実施、年度内に登録を完了させる。 ③ 学習進路担当教諭にて夏休み中に廃棄候補図書を確定する。 ④ 持続可能な開発のための教育 ESD(Education for Sustainable Development)関連資料の買い替えを進める。 ⑤ 全蔵書の2割(4200冊超)程度について、「3桁分類」への転換作業を実施する。蔵書数が多く、新規購入分の小学部蔵書3桁変更を含むため、新田学園第一校舎は通常校3年計画のところ5年計画ですすめる。(教育政策課了承済み)令和5年度は5か年計画の3年目となる。絵本は児童利用の観点から現行の「E+分類番号2桁」のままとする。	成果・効果 ① 分類比率を考慮し、生徒・教員の希望に応じて購入を進めた。 ② 充実予算・寄贈による発注回数増があり、年度内の登録と配架が完了している。 ③ 年度内で破棄候補図書を確定し、一部を校内設置図書にしたり、リサイクルしたりすることができた。 ④ 持続可能な開発のための教育 ESD 関連資料の買い替えを進めることができた。 ⑤ 転換作業は8類まで終了し、9類の作業は継続して行っている。
【学校司書との連携・協働】 ① 学校図書館オリエンテーションの実施等、学校司書との積極的な連携・協働に取り組む。 ② 学校図書館を、中休み、昼休み、放課後等も開館し、可能な限り利活用 of 場を設ける。 ③ 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について	① 学校図書館オリエンテーションの実施等、学校司書の積極的な連携・協働に取り組めた。 ② 学校図書館を、中休み、昼休み、放課後等も開館し、可能な限り利活用 of 場を設けることができた。

積極的に支援員への相談や情報交換を行う。 ④ 読書週間に生徒が主体となって利用実態調査を行う。 ⑤ 展示・掲示の工夫・充実を図り、生徒の読書活動の向上に努める。 ⑥ 学校図書館の利用状況を共有し、相談や情報交換を行う。	③ 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に学校司書への相談や情報交換を行った。 ④ 生徒主体となり、図書館利用実態アンケートを行うことができた。 ⑤ 展示・掲示の工夫・充実を図り、生徒の読書活動の向上に努めることができた。 ⑥ 学校図書館の利用状況を共有し、相談や情報交換を行った。
【その他】 ① 年度末の貸し出し返却率が 100%となるよう取り組む。 ② 蔵書点検を行い、不明蔵書の把握および家庭への通知を行い、発見に努める。 ③ 利用状況等の評価結果やそれを踏まえた改善の方向性等を学校図書館基本計画と併せて校内で情報交換を行う。	①年三回督促状を発行し、返却率が 100%になるように努めた。 ②今年度から、紛失・汚破損図書の報告をお願いし、不明図書の発見に努めた。 ③利用状況等の評価結果やそれを踏まえた改善の方向性等を学校図書館基本計画と併せて校内で共有することができた。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

授業内での図書館利用については各学年でほとんど無く、成果目標を達成することができなかった。特に7年生の授業での図書館利用率が低く、「言葉」や「歴史」の調べ学習など、図書館を積極的に利用する活動を取り入れたい。しかし、昼休み・放課後の利用率は高く、学校図書館が生徒の豊かな想像力を育てる役割の一端を担うことができたと言える。教科ごとの利用頻度にも偏りがあるため、様々な分野で適切な情報を利用し探究活動ができるよう、学校全体で取り組む必要がある。

今年度、図書委員会では、生徒が主体となり、読書週間にあわせたイベントを企画して行ったり、アンケート調査などの新しい取り組みも実施できたり、図書館をよりよくしていく活動ができた。また、今年度も廃棄図書のリサイクル活動を継続して行うことができた。今後も教科担任と図書館担当教員、学校司書がより一層連携して学校図書館活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

本の修繕・修理を手伝っていただいた図書ボランティアの方からは、「今年度からボランティアが再開し、学校図書館の運営に携わることができてよかった。」という声があった。